

獣医療計画に関する地域意見と対応方向について

資料 4 - 2

○「第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」の策定に向けた意見聴取等における地域からの意見

分類	意見内容（要約）	対応方向（案）
産業動物獣医師の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業動物獣医師が少ないという課題について。産業動物に進む獣医師が少ないのは事実で大学も反省する必要がある。産業動物の魅力伝える必要。（畜産部会委員） ○ 獣医師の確保に万全を期して欲しい。（檜山、宗谷、檜山） ○ 家畜伝染病予防法及び飼養衛生管理基準の改正を踏まえ、今後、北海道が策定する飼養衛生管理指導等計画及びその運用にあたっては、現場における家畜衛生指導に必要な獣医師の確保を図ること。（JAグループ北海道） ○ 獣医学生に対する産業動物臨床分野への理解醸成により、馬の臨床獣医の希望者を増やすことが必要（日高軽種馬農業協同組合） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 獣医学生に対しては、これまでも大学の就職説明会等を通じて産業動物獣医師の業務の魅力やPRするとともに、インターンシップで獣医学生を積極的に受け入れ、関心をもった学生を増やしているところ。 ○ 道としては、小動物分野からの職場転換を検討している獣医師に対する誘引活動や、家畜防疫分野におけるOBを積極的に活用していく考え。 ○ 酪肉近計画においては、産業動物獣医師の確保に向けた取組の必要性の観点から、産業動物獣医師の育成・確保を反映させることにしており、獣医療計画においても「獣医師の確保対策」に反映させてはどうか。
慢性疾病	<ul style="list-style-type: none"> ○ 牛伝染性リンパ腫（牛白血病）は、牛群内の陽性率増加は農場の大きな経営リスクとなりかねないことから、検査の積極的な推進や助成の措置が望まれます。（石狩、オホーツク） ○ 家畜衛生対策の推進にサルモネラ感染症も加えていただきたい。未然防止のための予防対策の推進の他、発生した際の対策費用の確保支援等を盛り込んだ計画をお願いしたい。（上川） ○ ヨーネ病対策については、2、3年で終わるものではなく、長い期間を要するものであり、国からの手当金や自主淘汰への補助だけでは限界。地域内の畜産の衰退を避けるためにも、衛生対策の手厚い支援が必要。（日高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 牛伝染性リンパ腫は、感染しても多くが無症状であるが、発見時には既に農場内に拡がっているケースも多いことから、引き続き、国の「衛生対策ガイドライン」に基づき、導入牛の検査など農場への侵入防止や農場内での伝搬防止対策を推進するとともに、各種事業を活用した検査やハイリスク牛のとう汰、吸血昆虫対策などを推進していく必要がある。 ○ また、サルモネラは、治療による生乳廃棄など損失が大きいことから、引き続き、国の事業を活用した早期発見のための検査や発生後の消毒などとともに、各地域自衛防疫組織による互助事業等地域的な取組への支援を推進する必要がある。 ○ さらに、ヨーネ病については、近年、地域内での発生件数が増加する事例が認められており、本病の特性上、継続的な検査や消毒など対策に長期間を要することから、検査やハイリスク牛の自主とう汰だけではなく、農場自ら及び地域の家畜自衛防疫組合や振興局などが連携し、飼養衛生管理を徹底することで新たな感染牛が出ないようにするなど、地域一体となって衛生対策を推進していくこと必要である。 ○ 酪肉近計画においては、自己及び地域関係者が一体的となって取り組む家畜衛生対策の推進の観点から反映させることにしており、獣医療計画にどのように反映させることができるか検討する。
水際対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外からの悪性伝染病の水際対策が非常に重要。外国人労働者などが持ち込んでくる肉製品が非常に心配。（後志） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年4月、国は家畜伝染病予防法を改正し、家畜防疫官の権限や輸出入検査に関する罰則を強化するとともに、国際郵便物における検査体制も強化しており、引き続き、外国人技能実習生等に対する普及啓発を図るとともに、農場の飼養衛生管理基準の遵守徹底により、農場への侵入防止を推進する必要がある。 ○ 酪肉近計画においては、国と連携した侵入防疫対策の徹底の必要性の観点から反映させることにしており、獣医療計画にどのように反映させることができるか検討する。
乳房炎対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳房炎対策として乳房炎ワクチン（スタートバック）の普及推進。（オホーツク） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳房炎の減少は各農場における生産乳量の増加や乳質向上、廃棄乳や治療費を減らすことにつながることから、今後とも農業共済組合などと連携し、ワクチンだけでなく衛生管理の指導を徹底していく必要がある。 ○ 酪肉近計画においては、乳房炎対策として、ベストパフォーマンスの実現に向けた飼養管理技術の向上や飼養衛生管理の徹底による疾病対策の重要性について反映させることにしているが、獣医療計画にどのように反映させるか検討する。